

【週刊タバコの正体】

Vol.27 第1話～第3話

2014/01 和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 27

(No. 368) 第1話 タバコの火災

－「火の用心」＝「タバコに用心」

新年おめでとうございます。2014年のお正月はいかがでしたか。元旦から一週間しかたっていないので学校の生活リズムに戻るには少し時間が足りないでしょうが、すぐそこに3年生は最後の学年末考査、2年生は修学旅行、1年生はインターンシップが迫っています。潔いさぎよく気持ちを切り替えて学年の締めくくりとなる3学期を頑張ってください。

さて寒さが厳しいこの季節、暖房器具は欠かせませんので火気を扱うことが多くなります。それに加え冬場は空気が乾燥しているので“火事”が多くなる時期なのです。...

(No. 369) 第2話 少年のタバコ

－幼い子供がタバコを吸い始めるのは...

日本では、大人がタバコを吸う姿は頻繁に目にしますが、子供がタバコを吸う姿を見ることはありません。しかし、写真のようにインドネシアではタバコの規制がゆるく、10歳未満の子供でも喫煙経験者は少なくないそうです。

タバコが、どれほど有害で危険なものなのかを知っている君たちから見れば、信じられない光景だと思います。そして、こんな頃からニコチン依存症となって、将来にわたってタバコを吸い続けるかもしれないこの子が、とてもともかわいそうです。...

(No. 370) 第3話 4兆円の赤字

－タバコの一番の被害者は喫煙者なのに...

正しいタバコの知識を持っている人は、タバコに手をだすことはないでしょう。そして、家族や親類、それに身近な人たちのなかに喫煙者がいなければ、おそらくタバコに興味を持つこともないでしょう。しかし、本当のタバコの姿を知らないあいだに、まわりに何人かの喫煙者がいたとしたらどうでしょうか。タバコに興味を示すのが当然の成り行きかも知れません。

タバコのない環境で生活していればタバコの被害にあわずに済んだところを、たまたま運悪く、タバコの事を知らないまま、まわりの喫煙者の影響でタバコを吸い始めてしまったとしたら、とんだ災難にあったようなものです。タバコは「百害あって一利なし」と言われるほど有害ですから、喫煙者はタバコの害の被害者だと言えるでしょう。...

※今月号より、「週刊タバコの正体」は、最初の部分のみを紹介することにしました。続きは、日本禁煙科学会のホームページでご覧下さい。(編集子)

毎週火曜日発行



URL: http://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_2011.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。

2014年1月

Issue number 369

週刊 **タバコの正体**

第2話

日本では、大人がタバコを吸う姿は頻繁に目にしますが、子供がタバコを吸う姿を見ることはありません。しかし、写真のようにインドネシアではタバコの規制がゆるく、10歳未満の子供でも喫煙経験者は少なくないそうです。

タバコが、どれほど有害で危険なものなのかを知っている君たちから見れば、信じられない光景だと思います。そして、こんな頃からニコチン依存症となって、将来にわたってタバコを吸い続けるかもしれないこの子が、とてもともかわいそうです。

私たちの周囲では、こんな子供にタバコを吸わせてしまっている場合があります。しかし、タバコの事を正しく知らない人達ばかりが暮らし、何も知らない未成年の子供にタバコを吸わせてしまう事が重大な事だと思いませんか？

ところで、「タバコの事を正しく知らない」という状態は、「知られていない」からなのです。じつは中から半世紀前の日本も、ほとんどの人がタバコの有害性や危険性を知られていなかったのです。成人男性の喫煙率は約60%を越えていたのです。もし、日本に「未成年者喫煙禁止」という法律がなかったら、インドネシアのような事態になっていたかも知れません。

さて、遠い外国から身延るとともに読点を終らせてください。さすが小学生が喫煙する訳ではありませんが、もしかすると君たちが育った中学校時代や高校を去ると、13歳～18歳の少年少女がタバコを吸う姿を目にすることがあります。その姿は写真の少年とどれほどの違いがあるでしょうか。

タバコがどれほど有害で危険なのか、そして一旦ニコチン依存症になってしまつと、どれだけの時間とお金と健康を犠牲にしなくてはならないのか。そんな目で彼ら後輩たちを見ると、写真の少年と真逆のように、とてもともかわいそうです。

ニコチン依存症になってしまった後輩たちには、タバコの事を正しく知っていたのか、そして、そのまわり人もタバコの正しい知識を持っていたのか、もし、知らないまま、知られぬままタバコに手を付けたのなら本当に不幸です。きちんと教えてもらって吸わなければいけないものかも知れないのですから。

そのまわりと正しいタバコの知識を持っている皆さんには、くれぐれも、こんな不幸なケースを減らすための行動や態度を身に付けてくれる事を願わずにはいられません。

産案デザイン科 奥田 恭久

In WAKO Since 2005

2014年1月

Issue number 370

週刊 **タバコの正体**

第3話

正しいタバコの知識を持っている人は、タバコに手をだすことはないでしょう。そして、家族や親類、それに身近な人たちのなかに喫煙者がいなければ、おそらくタバコに興味を持つこともないでしょう。しかし、本当のタバコの姿を知らないあいだに、まわりに何人かの喫煙者がいたとしたらどうでしょうか。タバコに興味を示すのが当然の成り行きかも知れません。

タバコのない環境で生活していればタバコの被害にあわずに済んだところを、たまたま運悪く、タバコの事を知らないまま、まわりの喫煙者の影響でタバコを吸い始めてしまったとしたら、とんだ災難にあったようなものです。タバコは「百害あって一利なし」と言われるほど有害ですから、喫煙者はタバコの害の被害者だと言えるでしょう。

ところが、「自分は被害者だと認識している喫煙者はいません」という人も、毎日タバコを吸って、健康が壊れるような事はありません。それどころか気分が軽くなるくらいです。タバコの被害をこう思っている人は、むしろタバコのお陰で毎日健康に生活できていると思いたい人も多いと思います。喫煙者をこんな感覚に感じさせてしまつたのがタバコにやらいところなのです。

しかし、左図を見て下さい。外見も自分自身でも自覚値がなくても、喫煙者には必ず身体にわたって、これだけの被害を及ぼしています。

ただ、この被害の程度は毎日、本日に少ずつなので、何十年か経てば病気になるまで被害を受け続ける事になるのです。そうすると、やはり気の毒な被害者ですわね。

こんな被害をうけないためには、吸い始めの「事」が一番ですが、吸い始めた「被害者」は、まわりの人が助けてあげなければいけません。

産案デザイン科 奥田 恭久

In WAKO Since 2005

